

社会 1次 正答率・講評

問題		正答率 (%)		講評	
		受験者	合格者		
【1】	問1	87.7	95.0	日本の地理について基本的な内容を中心に出題した。全受験者と合格者との間で約10%近い差がついた設問は問5と問8であった。問5は枠内の文章は正しいが、雨温図が太平洋側のもので、内陸の盆地気候を示していないので誤りであった。また、問8では大館市の伝統的工芸品と文章の組み合わせは正しいが、大館市は秋田県の県北の都市である。よって、新潟県は誤りである。なお、問2の写真の判別がやや難しい程度である。全体を通じて全問正解もしくは、2題程度の誤答の範囲で対応できていれば、地理分野は十分に合格点に到達するレベルの出題内容であった。	
	問2	32.9	41.3		
	問3	74.1	83.8		
	問4	95.6	98.8		
	問5	70.9	83.8		
	問6	83.5	80.0		
	問7	78.5	86.3		
	問8	66.8	75.0		
【2】	問1	(1)	96.8	97.5	古代～近代の歴史上に活躍した人物を人気投票したと仮定して、肖像画と共に出題した基本問題。人物は、聖徳太子・織田信長・足利義満・徳川吉宗・北里柴三郎・源義経の6人を題材とした。教科書にも掲載されている馴染みのある人物に関する設問であるので全体的に正答率は高い。合格者との点差がついたのは、問1の(4)の北里柴三郎の業績を問う問題。新紙幣の1000円札の肖像画としても使用される人物であるので、破傷風の治療法を発見したことなど記憶に留めておきたいところである。問4の遣隋使に関する設問では、遣唐使と混同している受験生も見受けられた。問6は、足利義満が保護した人物(観阿弥)を考えれば正答できる。問7は、徳川吉宗が進めた享保の改革の政策が分かれば解ける問題である。問9の源平の合戦は、教科書の地図に掲載されているものである。賤ヶ岳の戦いだけが異質であることに気が付いてほしい問題。総じて難しい問題は無いので、選択肢に惑わされないように、落ち着いて解くことが必要であった。
		(2)	58.9	65.0	
		(3)	88.0	92.5	
		(4)	72.2	87.5	
	問2	96.8	98.8		
	問3	94.3	97.5		
	問4	79.1	91.3		
	問5	95.6	93.8		
	問6	76.6	82.5		
	問7	80.4	93.8		
	問8	80.7	90.0		
問9	67.1	76.3			
【3】	問1	68.7	80.0	技術の発達が社会に与えた影響をテーマとして出題をした。技術発達が社会にどのような影響を与えてきたか、そして将来どのような影響を与えると考えられるかという問いを通じて、「将来自分はどうのように生きたいか」を考えるきっかけになってもらえればと思う。 四択の問題はきちんと考察して答えを導き出すことができていた。その中で、受験者平均と合格者との正答率の差が大きかったのが問1と問7である。問1は火の使用と打製石器の使用は旧石器時代からであり、定住生活の開始である縄文時代とは違うと導きだしてほしい。また、男女の役割分担は移住生活でも存在しうる。問7は人びとの移動の活発化と農村部の食料不足には関連性がないことに気づけるかどうかであった。 記述問題は全体的に資料を有効活用できていない答案が多かった。問2はアスワンハイダムがつくられたことによって起こった問題を資料から読み取る問題であったが、問題点まで指摘できていた答案が少なかった。問5は資料を読まずに戦国時代という思い込みからの誤答が多く、また、ヨーロッパで発展した理由まで考察できていない答案が多かった。問8に関しては、将来に対して否定的な意見が多かった。技術革新の結果として環境破壊や今まで存在していた職がなくなるなどの悪影響がでることもある。しかし、社会をより良くさせるために技術開発を行う以上、問題は発生しても技術革新による社会変化を肯定的にとらえてほしい。新たな技術を将来どう生かせるかを考えてほしい。	
	問2	記述	29.2		35.0
	問3	66.5	70.0		
	問4	86.7	93.8		
	問5	記述	9.5		16.3
	問6	63.9	70.0		
	問7	56.3	70.0		
	問8	記述	52.7		59.6

社会 2次 正答率・講評

問題		正答率 (%)		講評	
		受験者	合格者		
【1】	問1	39.1	41.9	長野県長野市の地形図を活用した地域調査の問題を出題した。特定の地域の特徴を読み解くにあたっては、様々な観点から考察する論理的思考力が求められることから、普段の生活で感じる「なぜ」という疑問は積極的に解決してほしい。問1は山地に囲まれた地形、盆地に位置する都市を答える問題であったが、多くの受験生は「さいたま市」と誤答していた。さいたま市は関東平野に位置しており、付近には大きな山地は見られない。問3の方位に関する問題は、問題文を読み間違えたことにより、河川の流れてくる方角の「北西」という解答が目立っていた。問題文を正しく読みとる読解力は、社会科だけではなく他教科でも必要となることから、出題者の意図を正しく読みとって答えるようにしよう。問5のように、与えられた統計データから答えを推測する問題は、単なる統計資料の暗記では対応できない。そばは痩せた土地でも育てられることと、統計の上位に挙げられている他の県の特徴に共通する点を踏まえれば、選択肢を絞ることが出来るであろう。問6の東西地質境界線に関して、失点をした受験生の多くは「フォッサマグマ」と誤答していた。試験の残り時間を活用して見直しを行い、一つでもケアレスミスを減らす努力をしよう。	
	問2	81.1	89.8		
	問3	66.0	75.0		
	問4	74.2	81.4		
	問5	50.4	57.2		
	問6	69.5	78.4		
	問7	82.4	88.1		
	問8	86.9	92.4		
【2】	問1	(1)	95.6	99.2	生徒同士で歴史の知識を使ったゲームで遊んでいる、というシチュエーションから出題を行った。友達同士で問題を出し合うことは、お互いの知識を楽しみながら高め合うことにつながるので、受験生の皆さんも、あるいは中学生になってからも是非やってみてほしい。正誤問題を中心に出題したため戸惑ったかもしれないが、落ち着いて一つひとつの選択肢について吟味することができれば、問題なく解答できたことと思う。正答率が極端に低かったのは、歴史上の宗教家たちについて出題した問5であった。(エ)という誤答が多かったが、フランシスコ=ザビエルが来航したのが1549年、織田信長が本能寺の変で倒れたのが1582年という有名な年号を踏まえれば、この2人が同時代に活躍した人間ではない、ということがわかったはずである。正解は(イ)であったが、受験生がこの選択肢を選ばなかったのは、法然といえば浄土宗、と一対一対応で覚えていて、その教えの中身までよく理解していなかったからかもしれない。語句だけを覚えるのではなく、その中身、意味まで理解することを心がけよう。文学作品の書き出しを問う問8はこれまでにない出題形式だったが、極端に正答率が低くなることはなかった。文化史は作者名と作品名を一対一対応で覚える、という学習方法になりがちだが、作品の中身まで理解して、生きた教養を育ててほしい。問10はポーツマス条約の条文を選ぶ問題だったが、教科書で紹介されることの少ない条文を用いた。そのため消去法で解答することを想定していたが、よくできていた。
		(2)	96.7	99.2	
	問2	66.7	74.2		
	問3	70.4	76.7		
	問4	82.4	86.4		
	問5	30.9	33.9		
	問6	85.5	87.7		
	問7	94.4	97.5		
	問8	74.7	83.5		
	問9	83.1	91.1		
問10	82.5	87.7			
【3】	問1	89.3	94.9	鉄道がもたらした社会変化などについて、世田谷線の歴史を柱として出題した。鉄道など普段何気なく利用しているものにも歴史や社会的な影響が存在する。何事においても、いつもと違う視点で捉えることの大切さを知ってほしい。 正誤問題は概ね高い正答率であった。基礎的な知識については各受験生とも十分に準備してきたように感じられる。その一方で、二酸化炭素排出量について出題した問5の正答率が低かった。地球温暖化対策として各国が取り組む二酸化炭素排出量の削減がいかに困難なものか、割合と実排出量の変化を通じて考えるきっかけとなってほしい。 記述問題については設問文と資料を十分に読み取り切れていない答案が目立った。問4については地球温暖化問題と少子高齢化という二つの問題を組み合わせて解答する問題であるが、どちらか一方にしか言及されていない答案が散見された。問7の女性に関する問題では、国による政策を答えるべきだが企業の活動に終始する答案が散見された。設問文をよく理解し、求められている解答を作成することを意識したい。また、本学園は男子校であるが、それ故にこうしたテーマについてより積極的に考えを深めていることが求められる。問8については、標準時が何を意味しているのか本質的な理解が十分ではないように感じられた。単なる用語の暗記にとどまらず、その意味までも十分に理解し、自分の知識として活用できる力がこれからの社会を生き延びる上で必要な能力である。様々な場面を通じ、そういった力を伸ばしてほしい。	
	問2	64.5	77.1		
	問3	79.1	87.3		
	問4	記述	29.9		36.3
	問5	51.1	62.3		
	問6	80.0	86.0		
	問7	政策	43.0		47.7
		理由	37.6		44.7
問8	記述	5.1	6.9		

社会 3次 正答率・講評

問題		正答率 (%)		講評	
		受験者	合格者		
【1】	問1	87.9	92.7	<p>日本の自然について、産業や文化の視点から出題をした。全体的に、合格者と全受験者との正答率に大きく差が出た結果となった。地形の学習について、単に地名と位置の暗記に留まった受験生は正答できていなかったと考えられる。特に、問6の名称や位置については、問題文中から関連する地名や語句を読み取ることで正答できるが、日ごろからこの関連性を意識した学習を行っているかどうか、得失点の差に表れたと思う。問3は、山がちな地形でありながらも稲作に取り組んできた、日本の農業の特徴に関する出題であった。問題文で「稲作」としているが、「～畑」という誤答が多くみられた。何が問われているかをよく考えて、見直しの際に気づいてほしいところである。</p> <p>新聞やニュースで取りあげられた地名について、地図帳で位置を確認するとともに、起こったできごとや問題となっている事柄などをメモしておく、復習の際に、関連性を意識した学習につながるようになる。</p>	
	問2	22.9	32.7		
	問3	48.2	70.9		
	問4	56.3	70.9		
	問5	68.1	90.9		
	問6	(a) 名称	45.5		70.9
		(a) 位置	88.2		94.5
		(b) 名称	73.1		90.9
(b) 位置		81.2	94.5		
(c) 名称		23.9	32.7		
	(c) 位置	65.3	80.0		
【2】	問1	(1)	97.0	100.0	<p>各時代の著名な絵画を題材とした出題を行った。今後、プライベートや学校行事で博物館や美術館に行った際、多くの美術作品を鑑賞するが、各作品に歴史的・社会的背景などがあることを理解し、表面的だけでなく、作品に対する深い考察を加えてほしい。問1は、問題文に作品のヒントが書かれており、全体的によくできていた。合格者と受験者の正答率で大きな差がついたのは、問2・問3・問5であった。問2は天武天皇の行った政策についての問題であったが、藤原京は持統天皇の時代に完成している。問3は、正倉院の校倉造が正解だったが、漢字ミスや「寝殿造」・「書院造」などの誤答が散見された。問5は江戸幕府の鎖国政策についての問であったが、(ウ)は室町時代のできごとである。問6は全体的に間違いが多い。普段から、歴史用語の暗記だけではなく、歴史の流れを把握しておこう。</p>
		(2)	94.5	98.2	
		(3)	94.5	98.2	
	問2	55.5	74.5		
	問3	78.9	90.9		
	問4	68.8	67.3		
	問5	78.6	89.1		
	問6	50.8	54.5		
【3】	問1	(1)	95.5	98.2	<p>オリンピックに関する地理、歴史、公民分野の総合問題で、思考力、分析力、表現力を問う出題であった。受験生の正答率が特に高かったのが、問1のオリンピックの歴史に関する出題、問2のアテネの位置を解答する地理に関する出題、問6の1964年の東京オリンピックの際のインフラ整備についての歴史に関する出題であった。問2の出題については、小学校で世界地理はあまり学習しないと思うが、リード文をよく読み考えれば解答できる出題であった。逆に正答率が低かったのが、問3の古代オリンピックが中止になった理由を、リード文の中から抜き出す歴史に関する出題、問5の資料統計を見てメダル獲得数の多い国に共通する理由について解答する思考力・分析力を問う問題であった。問3の出題は、読解力を問う国語的な要素を含む出題であったが、多くの受験生がしっかりリード文を読み、内容を理解していなかったようで最も正答率が低かった。問5の出題に関しては冷静に資料を見てその国の経済力が理解できれば、それに関連してメダル獲得が多くなるという発想や判断ができると思うが、やはり正答率は低く、残念であった。</p>
		(2)	84.9	96.4	
	問2	68.8	87.3		
	問3	31.2	38.2		
	問4	47.7	69.1		
	問5	特徴	72.6	84.5	
		理由	30.0	44.5	
	問6	93.2	98.2		
	問7	良い点	56.0	63.6	
		問題点	65.7	76.4	